

情報公開用文書（附属市民総合医療センターで実施する医学系研究）

（単施設研究用）

西暦 2025 年 3 月 9 日作成 第 1.0 版

研究課題名	上下顎骨切り術における末梢神経ブロック併用全身麻酔管理症例と全身麻酔単独管理症例の比較検討
研究の対象	2023 年 9 月から 2025 年 12 月の間に横浜市立大学附属市民総合医療センターにおいて、全身麻酔で顎変形症に対する上下顎骨切り術を施行された患者さんを対象とします。
研究の目的	顎変形症に対する骨切り術は全身麻酔で手術を受けていただきますが、痛みが強く、手術中や手術後の鎮痛薬として麻薬を多く使用してきました。麻薬は痛み止めとしての効果が強い薬ですが、吐き気や眠気、呼吸が弱くなる、などの副作用があります。麻薬の副作用が重篤になると、手術後に誤嚥性肺炎を発症したり、人工呼吸器管理が必要になるなどの合併症につながる可能性があります。手術時に全身麻酔に加えて神経ブロックを行うと、手術による痛みやストレス反応を減らすと言われています。上下顎骨切り術に対しても神経ブロックを行うことによって、麻薬の使用量を減らし、手術後の合併症を減らすことができるかを調べるのが本研究の目的です。
研究の方法	診療録から情報を収集して、手術時に神経ブロックを行ったかどうかで手術後の合併症の有無に違いあるかを検討します。 通常の診療で得られた情報を用いますので、研究対象の方のご負担になることはありません。
研究期間	西暦 2025 年 4 月 2 日（研究機関の長の許可日）～西暦 2028 年 3 月 31 日 情報の利用を開始する予定日：西暦 2025 年 4 月 2 日（研究機関の長の許可日）
研究に用いる 試料・情報 の項目	【情報】診療録から以下の情報を収集します。 1) 背景情報：年齢、性別、身長、体重、既往歴など 2) 手術情報：手術時間、麻酔時間、麻酔薬剤使用量、出血量など 3) パイタルサイン 4) 血液検査の結果：ヘモグロブリン値、血糖値など 5) 手術後入院中の鎮痛薬使用頻度など 6) 手術後合併症の有無とその内容：嘔気嘔吐、神経障害、再挿管、再手術など 7) 手術後酸素投与時間 8) 手術後鎮痛薬処方期間
試料・情報の 授受	本研究では、外部機関との情報の授受はありません。 情報は、当院で少なくとも 5 年間保管しますが、個人が特定できないよう加工された情報については、本研究の目的以外の学術研究に用いられる可能性または他の研究機関に提供する可能性があるため、保管期間終了後も期間を定めず保管します。 廃棄する際は、個人を特定できないように処理した上で復元できない方法で廃棄します。

情報公開用文書（附属市民総合医療センターで実施する医学系研究）

（単施設研究用）

個人情報の管理	情報は、個人名など単体で個人を特定できる情報を削除し、研究用の番号（識別コード）で管理します。必要時に個人を照合できるよう管理する表（以下、対応表）を作成して、識別コードから個人を特定することが可能になりますが、その対応表は当院外へ提供することはありません。
試料・情報の管理について責任を有する者	当院の個人情報の管理責任者は病院長ですが、その責務を以下の者に委任され管理されます。 研究責任者：横浜市立大学附属市民総合医療センター 麻酔科 佐藤 仁
利益相反	利益相反とは、研究成果に影響するような利害関係を指し、金銭及び個人の関係を含むものです。本研究は、資金を要しない研究です。開示すべき利益相反はありません。
研究組織（利用する者の範囲）	【研究機関と研究責任者】 横浜市立大学附属市民総合医療センター 麻酔科 （研究責任者）佐藤 仁
<p>本研究に関するご質問・ご相談等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。</p> <p>ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので下記連絡先までお申出下さい。</p> <p>また、情報が当該研究に用いられることについて研究の対象の方もしくはその代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも研究の対象の方に不利益が生じることはございません。ただし、拒否のお申し出をいただいた段階で既に研究結果が公表されていたときなど、データから除けない場合があります。</p>	
<p>問合せ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：</p> <p>〒232-0024 横浜市南区浦舟町 4-57 横浜市立大学附属市民総合医療センター 麻酔科 （研究責任者）佐藤 仁 （問い合わせ担当者）明石 裕里</p> <p>電話番号：045 - 261-5656（代表）</p>	